

一部でハイファ抜港の動き

■コンテナ船社、中東情勢悪化で

イスラエルとイランによる衝突により、中東地域の緊張が高まる中、コンテナ船社がイスラエル主要港への寄港を休止する動きが出ている。マースクは20日、イスラエルのハイファ港への寄港を一時的に休止する方針を発表。ハパックロイドも20日、ハイファ発着のサービスを一時的に削減する方針を明らかにした。

マースクはハイファ港への寄港と貨物の受け入れを停止することを決定。「船員と運航の安全確保は当社の最優先事項だ。地域の不安定化が進んでいることを踏まえ、従業員、資産、貨物を守るため、この措置を講

じた」と説明した。一方で、イスラエルのアシュドッド港への寄港は継続する。混乱を最小限に抑えるため、代替輸送手段の提供に注力していく方針だ。

ハパックロイドは、大西洋航路「AL7」においてはハイファの寄港を継続するが、中東のシャトル航路「EM3」でハイファの貨物の受け入れを一時的に停止した。「関係当局や港湾運営者を通じて状況を注視している。乗組員と貨物の安全、サービスの信頼性を最優先に考えていく」方針だ。

CMA-CGMは22日、中東情勢の

最新状況について声明を発表。「現段階では当該地域における輸送活動は通常通り行われており、当社の業務および物流チェーンに変更がないことを確認している。全ての航路と寄港地において、顧客に対して安定した品質基準を維持し、完全なサービスの提供を保証する」とした。

イスラエルのZIMは15日、予定通りイスラエルの港に寄港しており、イスラエル発着のブッキングは引き続き受け付けていると発表。一方で、危険品はイスラエル当局の指導によって取り扱われるが、予告なく変更される可能性があるとしている。